

「里山づくり育成研修会」 実施報告書

丹波の里山づくり促進事業実行委員会

1) 企画内容

① 研修会のねらい

「丹波の里山づくり推進事業」では、フォーラムと里山育成研修会の開催を通じて、丹波の里山づくりの発信と体験の推進を狙っている。

昨年度の研修会では、里山づくりのための一連の流れ（川上である現状調査から川下である商品開発まで）を知ることにより、今年度では、実際のモデル林での活動を知り、実際に体験できる内容とし、参加者が里山づくりへの具体的な行動を促すことを目的とする。

また今年度の研修会を通じて、研修会参加者とモデル林活動者の意見交換等により、モデル林活動のさらなる発展が期待できる。

② 参加対象

- 丹波篠山地域に在住の方 20～30 名程度
- 現在も施業を实践されている、もしくはこれから参加したいと思われる方
- 11 月開催予定のフォーラム参加者にも、第 3 回以降のプログラムを案内

2) 各研修内容の報告

第 0 回：自伐林業のお話とピザづくり交流会	
日時：9/21 10:00～13:00	場所：丹波の森公苑
参加人数：一般参加 12 人 関係者 9 人	ゲスト講師：山口祐助さん (自伐型林業推進協会)
まず事務局より、今年度の「里山づくり推進事業」の目的や全体構想、そのなかにおける「里山育成研修会」の役割などの趣旨説明、昨年度の研修会の報告をおこなった。 その後、これから研修会にとりくむ参加者の自己紹介を行い、現在行っている活動や参加理由を共有した。自分の持ち山や地域の山の荒廃が気になり、整備に入りたいがどうしたらいいかわからない、という参加者が多かったように思われる。 そして丹波篠山市在住の自伐林家 山口祐助さんをゲストに、自伐林業とは、山口さんからみた森の現状、これからの森とのかかわり方などについてお話いただいた。 その後石窯でピザづくりワークショップを行い、木質エネルギーの活用を体験するとともに、これから研修会をともにする参加者や講師の方々と交流を深めた。終始和やかな雰囲気、研修会のいいスタートとなった。	





第1回：森の植生調査・生態調査

日時：9/29 10:00~15:00

場所：丹波の森公苑

参加人数：一般参加 14 人

ゲスト講師：宮川五十雄さん

関係者 5 人

(丹波の森研究所・NPO 森の都研究所)

モデル団体の 1 つである生郷里山づくり懇話会のアドバイザーである宮川五十雄さんをお呼びし、里山づくりをはじめるにあたって、対象の山の現状を知り、整備の目標となる指標をつくるために重要な植生調査についての研修を行った。前半は室内で、まず丹波地域の山林の植生の特徴についての説明、そして主要なフロラ調査とコドラート調査について、やり方やその調査でわかること、使い分けなどの講義を受けた。後半は実際に外に出て丹波の森公苑内にどのような植物が生息しているのか歩きながら観察し、その後森に入りフロラ調査、コドラート調査の実習をおこなって、森がどのような構造をしているのかをみた。漠然とした森の整備放棄への問題意識から、具体的に森の現状を把握し、目指したい森とそれに必要な工程を描くために植生調査が重要な役割を果たすことを学んだ。



第2回：施業のための基礎整備研修	
日時：11/9 10:00~15:00	場所：大路こどもの森
参加人数：一般参加 20 人 関係者 5 人	ゲスト講師：木下裕文さん(あまがえる) 山崎春人さん(里山アドバイザー)
モデル団体の 1 つである下三井庄自治会の活動地、大路こどもの森にて、アドバイザーの山崎さんと造園業を営むあまがえるの木下さんに講師をつとめていただいた。前半は下三井庄自治会の活動紹介やこどもの森の変遷についてお話しいただいた。ギャップを作り出すことにより植生が多様化していく様子や、こどもが山林で遊べるための工夫などを実際に見ることができた。後半は「食べられる」山づくりをテーマに、残すべき植生とそうでないものを見極めながらの下草刈りを行った。作業をおこないながら山崎さん木下さんから手に取った植物の説明や活用方法のレクチャーを受けた。 山づくりのコンセプトを明確にした上で、どういった植生を残しながら利用が可能になるかをゾーニングしつつ、施業に入ることの重要性を、下三井庄の実例をみながら学んだ。	
	



第3回：モデル林活動①

日時：12/7 10:00~15:00

場所：たんば里山ごんげんさん

参加人数：一般参加9人

ゲスト講師：前川哲和さん

関係者8人

(バイオマスフォーラム丹波)
山崎春人さん(里山アドバイザー)

モデル団体であるバイオマスフォーラム丹波の活動地、たんば里山ごんげんさんの見学をおこなった。まず森の中を歩きながら、森の構造や整備の経緯について説明を受けた後に、前川さんより団体の活動報告のプレゼンを行っていただいた。後半は焚火を囲みながら飯盒炊飯や棒パン、マシュマロを焼いたり、森に落ちている資源を使ったクラフトを行い、里山での遊び方を体験した。当日はごんげんさんの活動日であり、普段利用している子供連れの家族の姿も多くあり、子どもや若い世代が楽しんで活用できる里山を実際に見ることができた。





第4回：モデル林活動②	
日時：1/25 10:00~15:00	場所：平松公民館・平松区森林愛好会活動地
参加人数：一般参加 16 人 関係者 5 人	ゲスト講師：伊藤忠嘉さん(平松区森林愛好会)
モデル団体の平松区森林愛好会の活動の見学を行った。前半は公民館にて団体の概要、活動のコンセプト、里山づくりの進め方について、理念から実践に役立つノウハウまで具体的にレクチャーいただいた。後半は活動地に足を運び、実際にメンバーが活動をしている様子を見学した。人工林では道づくり、チルホールを使った風倒木の処理、林内作業車で搬出の様子を、そして搬出した先で薪割り機を使って薪をつくる様子を、体験を交えながら見学した。侵入竹林の活動地では、竹を絶やす施業法を教わり、チップパーで竹を粉砕している様子、活用方法を学んだ。高度で実践的な活動の事例に、刺激を受けた参加者が多かったように思われる。	



第5回：グリーンウッドワーク体験	
日時：2/29 10:00~15:00	場所：丹波篠山市木の駅
参加人数：一般参加 18 人 関係者 6 人	ゲスト講師：福畑慎吾さん (グリーンウッドワーク協会)
山林資源活用の事例として、グリーンウッドワーク協会の福畑さんをお呼びし、生木から斧とナイフを使って暮らしの道具を作り出すグリーンウッドワークについて研修をおこなった。まず福畑さんにグリーンウッドワークとは何か、どの樹木や道具を使うか、海外や関東で起きているムーブメントなどについてお話いただいたうえで、スプーンづくりの実演をしていただいた。そのあと参加者みんなで、グリーンウッドワークを行うのに必要なチョッピングブロックと作業台をつくる体験を行った。参加者は生木のまま木工生人をつくる事例に驚いている様子で、体験を通じて木の特性を体感し、夢中でものづくりに取り組んでいるようだった。新しい山林資源活用の事例を提示することによって、これからの里山づくりや資源活用に前向きで柔軟な発想を生むきっかけとなる回になったように思われる。	
	



3) 資料編

① 打ち合わせ記録

(7月16日16:00-@県民局)

- 業務内容（方針）の確認
- 企画書草案を次回提示

(7月25日15:00-@バイオマス丹波篠山)

- 研修会と別途開催しているフォーラムとの位置付け確認
- 研修会の企画内容を確認
- 次回詳細な企画書とチラシ案を作成・提示

(7月30日10:00-@県民局)

- 企画書の内容を確認
- チラシ内容の確認
- 次回見積もりの作成

(8月6日11:00-@県民局)

- チラシ内容の一部修正
- 企画プログラムと講師内容の一部修正

(8月26日14:00-@県民局)

- チラシ内容の最終確認→印刷へ
- 見積もり内容の最終確認

※なお、8月から9月にかけて、打ち合わせの場以外でチラシ・企画プログラムなどの内容を確認をメールにて個別に行なっている。

② そのほか資料

- 告知用チラシ
- 各回の次第
- アンケート
- 参加者名簿

参 加 費 無 料 !

丹波篠山の森づくりを知らう！

里山育成研修会

開催
期間

2019/9/21
~2020/2/29

オープニングイベント+全5回
1回ごとにご参加いただけます。

参加費：無料

定 員：各回20名

場 所：丹波市、丹波篠山市の各活動地

「丹波里山づくり推進事業」では、昨年より丹波の里山づくりを推進することを目的とした、フォーラムと研修会の開催を行っています。

今年度は、実際にモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。

里山育成に関心のある、より多くの方にこの会に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。

オープニング
イベント

9/21 (土) 10:00~13:00

『自伐林業のお話とピザづくり交流会』

ゲスト：山口祐助さん(自伐型林業推進協会) 場所：丹波の森公苑

第1回

9/29 (日) 10:00~15:00 ※予備日…10/19 (土)

『森の植生調査・生態調査』

講師：宮川五十雄さん(丹波の森研究所・NPO森の都研究所)

第2回

11/9 (土) ※予備日…11/16 (土)

『施業のための基礎整備研修』

講師：木下裕文さん(あまがえる)/山崎春人さん(里山アドバイザー)

第3回

12/7 (土) ※予備日…12/14 (土)

『モデル林活動体験①』

講師：前川哲和さん(バイオマスフォーラム丹波)/山崎春人さん(里山アドバイザー)

第4回

1/25 (土)

『モデル林活動体験②』

講師：伊藤忠嘉さん(平松区森林愛好会)/門上幸子さん(里山アドバイザー)

第5回

2/29 (土) ※予備日…3/7 (土)

『グリーンウッドワーク体験』

講師：福畑慎吾さん(グリーンウッドワーク協会)

主催：丹波の里山づくり促進事業実行委員会

里山育成研修会プログラム

オープニング
イベント

9/21(土)
10:00～13:00

『自伐林業のお話とピザづくり交流会』

◇ゲスト:山口祐助さん(自伐型林業推進協会) ◇場所:丹波の森公苑
林業の現状と今後の課題について、山口さんに自伐林家の視点でお話しいただき、
その後研修会の参加希望者や講師のみなさんと、ピザづくりなどで交流します。



山口祐助さん

第1回

9/29(日) 10:00～15:00 『森の植生調査・生態調査』

◇講師:宮川五十雄さん(丹波の森研究所・NPO森の都研究所)
◇場所:丹波の森公苑 集合場所 丹波の森公苑(兵庫県丹波市柏原町柏原5600)
◇持ち物:昼食・筆記用具・汚れてもいい服装でお越しください。
現在の森の現状(整備の必要性や可能性)を知るための、植生調査と生態調査を行います。

※予備日…10/19(土)

第2回

11/9(土) 10:00～15:00 『施業のための基礎整備研修』

◇講師:木下裕文さん(あまがえる)/山崎春人さん(里山アドバイザー)
◇場所:下三井庄自治会の活動地 集合場所 大路小学校前の駐車場(兵庫県丹波市春日町下三井庄1080)
◇持ち物:昼食・筆記用具・汚れてもいい服装でお越しください。
地形や水脈の読み方、生態系を、林道整備などの施業の際どのように反映していくかを学びます。

※予備日…11/16(土)

第3回

12/7(土) 10:00～15:00 『モデル林活動体験①』

◇講師:前川哲和さん(バイオマスフォーラム丹波)/山崎春人さん(里山アドバイザー)
◇場所:たんば里山ごんげんさん 集合場所 道の駅「丹波おばあちゃんの里」(兵庫県丹波市春日町七日市710)
◇持ち物:昼食・筆記用具・汚れてもいい服装でお越しください。
森の中での遊び方や楽しみ方など、森林を空間として活用する事例紹介の後、プログラムなどを考えます。

※予備日…12/14(土)

第4回

1/25(土) 10:00～15:00 『モデル林活動体験②』

◇講師:伊藤忠嘉さん(平松区森林愛好会)/門上幸子さん(里山アドバイザー)
◇場所:平松公民館 集合場所 平松公民館(兵庫県丹波市春日町平松822)
◇持ち物:昼食・筆記用具・汚れてもいい服装でお越しください。
モデル林の視察や活動内容をヒアリング後、森林資源を使ったクラフト体験を行います。

第5回

2/29(土) 10:00～15:00 『グリーンウッドワーク体験』

◇講師:福畑慎吾さん(グリーンウッドワーク協会)
◇場所:丹波篠山市木の駅 集合場所 有限会社山高建設駐車場(兵庫県丹波篠山市垣屋159-2)
◇持ち物:昼食・汚れてもいい服装でお越しください。
生木の木材加工と製品づくりを体験します。木材利用のニーズを知り、新しい活用法を見出します。

※予備日…3/7(土)

《※各回集合場所の詳細につきましては、参加申し込み後にメールにて個別にお知らせいたします。》

参加申し込みシート (締切) 2019年09月18日(水) 必着にてお願いします。

研修会参加申込書 | 必要事項をご記入の上、ファックスにてお送りください。 **FAX 079-593-1377**

ふりがな
お名前

電話番号 (悪天候など予定変更時などに連絡が取れる電話番号をご記入ください。)

住 所

メールアドレス

参加希望の会に
チェックを入れてください。

☐ オープニングイベント ☐ 第1回 ☐ 第2回 ☐ 第3回 ☐ 第4回 ☐ 第5回

※個人情報について/お預かりしました個人情報につきましては、厳重に管理し、目的以外に使用することはございません。

申込・問合せ先

特定非営利活動法人 バイオマス丹波篠山 〒669-2714 兵庫県丹波篠山市垣屋159-2
TEL→079-593-1150/FAX→079-593-1377/MAIL→info.bmtsasayama@gmail.com

主催:丹波の里山づくり促進事業実行委員会 (事務局) 兵庫県丹波県民局 丹波農林振興事務所 森林課

第0回：自伐林業のお話とピザづくり交流会

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
 - 10:10 研修会の趣旨説明とプログラム説明（事務局より）
 - 「丹波の里山づくり促進事業」と「モデル活動団体」の紹介
 - 「H30 年度・30 年後の森を描く研修会」の報告
 - 今後の予定についての説明
 - 10:30 参加者の自己紹介と今回の講師紹介
 - 10:45 アイスブレイク
 - ピザの生地こね
 - 11:00 山口祐助さんのお話（質疑応答）
 - 12:00 ピザづくりワークショップ&交流会
 - 13:00 解散
-

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。願っております。
-

今回のゲスト講師：山口祐助さん

- 兵庫県篠山市在住。兵庫県に約 180ha を所有し、作業道を高密度に張り巡らせて、抜き伐りで効率的な木材生産や、針葉樹と広葉樹を混生させた整備を進めている純粋な自伐林家。伐倒から運搬、作業道敷設まで、すべての林業施業の作業を一人でこなすことができるオールラウンダー。今回は、林業、自伐とはどんな仕事なのか、山口さんから見た林業や森林の現状、これからの林業や森づくりのあり方、などについてお話しいたします。

丹波の里山づくり促進事業について

- 「丹波の森宣言」以来 30 年がたちました。この間、私たちは丹波の森を大切にし守り育ててきました。丹波の自然や森林は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。いま、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や森林を大切にしながら、「丹波の森」づくりをさらに進めていかなければなりません。



丹波地域らしいモデルとなる里山づくりに取組む団体を、12月3日に6団体選定しました。今後、6団体と来年度に募集する団体の活動が長期継続できるように支援し、その活動を広く発信することで、地域全体に活動を広め、丹波地域の美しい里山を次世代に繋いでいきます。

1 活動団体の概要

団体名および代表者	活動する里山の場所	目指す里山の姿
NPO 法人バイオマス丹波篠山 森の学び舎プロジェクト (高橋 隆治、内田圭介)	篠山市西谷 602 (篠山市立西 紀運動公園横里山)	子供が遊び学べる里山 資源を活用できる里山
生郷(いくさと)里山づくり懇 話会 (酒井 浩二)	丹波市氷上町石生字剣璽山 509 他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山
平松区森林愛好会 (伊藤 忠嘉)	丹波市春日町平松愛宕山 700 他	資源を活用できる里山
北岡本自治会 (黒田 拓治)	丹波市市島町北岡本立岩 1～ 竈畑 271	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 子供が遊び学べる里山
NPO 法人バイオマスフォーラ ムたんば (前川 哲和)	丹波市氷上町谷村字後谷 1750 番地～1759 番地	子供が遊び学べる里山
下三井庄自治会 (里山保全の 会・林野委員会) (松岡 秀美、細見 勝)	丹波市春日町下三井庄字立目 横尾 2049 番地他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山

2 モデルとなる里山のイメージ

子供が遊び学べる 里山	資源を活用できる 里山	四季を感じられる 里山	光が入る明るい 里山
誰もが気軽に入ることができる里山。 イベントや学習会などができる施設の整備された里山。	山菜、マツタケ等が採れる里山。木工や竹細工などに利用できる里山。 森林資源を利用して経済効果が得られる里山	多種多様な樹種、鳥や虫など多くの生き物が生息できる里山。 四季の変化を感じられる美しい里山	ハイキングや森林浴ができる里山。 空気がおいしい里山。 明るく優しい光が差し込む里山。

各モデル林（活動団体）について

丹波の里山づくり促進事業の今後の予定について

❖ 丹波の森を未来につなぐフォーラム『30年後の森づくりに参加しよう！』

▶日時：2019年11月30日（土）13:00-16:00 予定

▶場所：青垣総合運動公園グリーンベル青垣（丹波市青垣町田井縄 782）

▶プログラム内容：

- 基調講演／各モデル林の活動報告／展示パネル／ワークショップなど



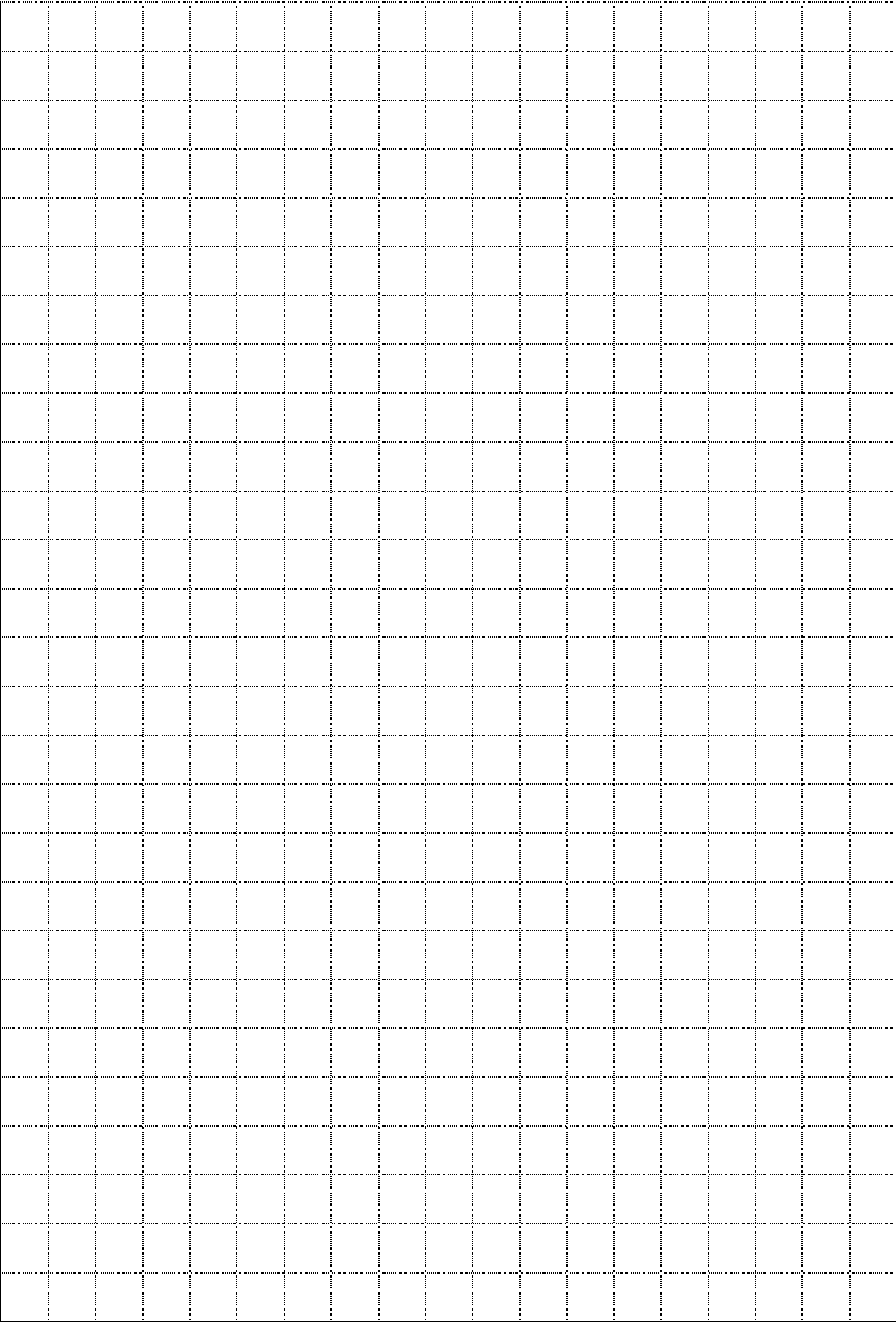
❖ 里山見学ツアー

▶開催：2019年11月～12月ごろ

▶場所：丹波市＋丹波篠山市内

▶ツアー内容（予定）：

- 三ノ宮→篠山口駅→丹波の森公苑→林産振興センター→丹波篠山市木の駅→西紀総合運動公園（西谷の森）→monoile（モノイレカフェ）→篠山口駅→三ノ宮



第1回：森の植生調査・生態調査

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
 - 10:10 今回の講師紹介とプログラム説明（事務局より）
 - 10:15 座学(植生調査・生態調査とは何か、どのように活用するかについて)
 - 12:00 昼食
 - 13:00 調査実習(丹波の森公苑内里山へ移動)
 - 14:30 調査のまとめ
 - 15:00 解散
-

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。
-

今回のゲスト講師：宮川五十雄さん

- NPO法人「森の都研究所」代表、里山アドバイザー。丹波市の動植物の調査や、高齢者から里山文化についての聞き取りを行い、それらを若い世代に還元する活動に取り組んでいる。子ども向けには体験型の出前授業を開くなど、豊かな自然に関心を持ってもらうために力を注ぐ。
-

丹波の里山づくり促進事業について

- 「丹波の森宣言」以来 30 年がたちました。この間、私たちは丹波の森を大切に守り育ててきました。丹波の自然や森林は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。いま、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や森林を大切にしながら、「丹波の森」づくりをさらに進めていかなければなりません。



丹波地域らしいモデルとなる里山づくりに取り組む団体を、12月3日に6団体選定しました。今後、6団体と来年度に募集する団体の活動が長期継続できるように支援し、その活動を広く発信することで、地域全体に活動を広め、丹波地域の美しい里山を次世代に繋いでいきます。

1 活動団体の概要

団体名および代表者	活動する里山の場所	目指す里山の姿
NPO 法人バイオマス丹波篠山 森の学び舎プロジェクト (高橋 隆治、内田圭介)	篠山市西谷 602 (篠山市立西 紀運動公園横里山)	子供が遊び学べる里山 資源を活用できる里山
生郷(いくさと)里山づくり懇 話会 (酒井 浩二)	丹波市氷上町石生字剣聖山 509 他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山
平松区森林愛好会 (伊藤 忠嘉)	丹波市春日町平松愛宕山 700 他	資源を活用できる里山
北岡本自治会 (黒田 拓治)	丹波市市島町北岡本立岩 1～ 竈畑 271	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 子供が遊び学べる里山
NPO 法人バイオマスフォーラ ムたんば (前川 哲和)	丹波市氷上町谷村字後谷 1750 番地～1759 番地	子供が遊び学べる里山
下三井庄自治会(里山保全の 会・林野委員会) (松岡 秀美、細見 勝)	丹波市春日町下三井庄字立目 横尾 2049 番地他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山

2 モデルとなる里山のイメージ

子供が遊び学べる 里山	資源を活用できる 里山	四季を感じられる 里山	光が入る明るい 里山
誰もが気軽に入ることが できる里山。イベントや学 習会などができる施設の 整備された里山。	山菜、マツタケ等が採 れる里山。木工や竹細工 などに利用できる里山。 森林資源を利用して経 済効果が得られる里山	多種多様な樹種、鳥や 虫など多くの生き物が 生息できる里山。四季 の変化を感じられる美 しい里山	ハイキングや森林浴が できる里山。空気がおい しい里山。明るく優し い光が差し込む里山。

各モデル林（活動団体）について

第2回：施業のための基礎整備研修

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
 - 10:10 今回の講師紹介とプログラム説明（事務局より）
 - 10:15 下三井庄自治会、子どもの森の活動紹介
 - 11:00 子どもの森を散策
 - 12:00 お昼休憩
 - 13:00 整備の実習
 - 14:40 まとめ
 - 15:00 解散
-

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。願っております。
-

今回のゲスト講師

- 山崎春人さん

里山アドバイザー。自然の中で暮らすため02年に西宮市から丹波市へ移住。丹波の子どもたちを中心に、森の遊び方や草花等の豊富な知識を伝え、キャンプや川遊び等を行う「あそびの学校」校長を務める。

- 木下裕文さん

「ひと・杜・暮らし あまがえる」代表。一級造園技能士・プランナー。三田市、神戸市、篠山市を中心に、ひとと緑が共生する空間作りをテーマに、お庭と外構の設計と施工を行う。

丹波の里山づくり促進事業について

- 「丹波の森宣言」以来 30 年がたちました。この間、私たちは丹波の森を大切にし守り育ててきました。丹波の自然や森林は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。いま、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や森林を大切にしながら、「丹波の森」づくりをさらに進めていかなければなりません。



各モデル林（活動団体）について

丹波地域らしいモデルとなる里山づくりに取り組む団体を、12月3日に6団体選定しました。今後、6団体と来年度に募集する団体の活動が長期継続できるように支援し、その活動を広く発信することで、地域全体に活動を広め、丹波地域の美しい里山を次世代に繋いでいきます。

1 活動団体の概要

団体名および代表者	活動する里山の場所	目指す里山の姿
NPO 法人バイオマス丹波篠山 森の学び舎プロジェクト (高橋 隆治、内田圭介)	篠山市西谷 602 (篠山市立西 紀運動公園横里山)	子供が遊び学べる里山 資源を活用できる里山
生郷(いくさと)里山づくり懇 話会 (酒井 浩二)	丹波市氷上町石生字剣聖山 509 他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山
平松区森林愛好会 (伊藤 忠嘉)	丹波市春日町平松愛宕山 700 他	資源を活用できる里山
北岡本自治会 (黒田 拓治)	丹波市市島町北岡本立岩 1～ 竈畑 271	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 子供が遊び学べる里山
NPO 法人バイオマスフォーラ ムたんば (前川 哲和)	丹波市氷上町谷村字後谷 1750 番地～1759 番地	子供が遊び学べる里山
下三井庄自治会(里山保全の 会・林野委員会) (松岡 秀美、細見 勝)	丹波市春日町下三井庄字立目 横尾 2049 番地他	資源を活用できる里山 四季を感じられる里山 光が入る明るい里山 子供が遊び学べる里山

2 モデルとなる里山のイメージ

子供が遊び学べる 里山	資源を活用できる 里山	四季を感じられる 里山	光が入る明るい 里山
誰もが気軽に入ることができる里山。 イベントや学習会 などができる施設 の整備された里山。	山菜、マツタケ等が 採れる里山。木工や 竹細工などに利用 できる里山。 森林資源を利用し て経済効果が得ら れる里山	多種多様な樹種、鳥 や虫など多くの生 き物が生息できる 里山。 四季の変化を感じ られる美しい里山	ハイキングや森林 浴ができる里山。 空気がおいしい里 山。 明るく優しい光が 差し込む里山。

子どもの森の植物

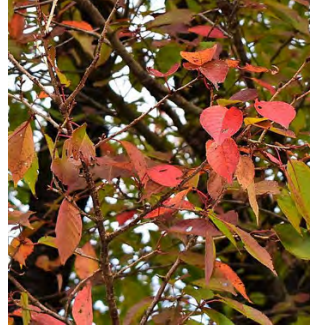
〇残したいもの



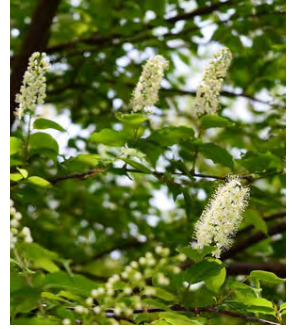
コシアブラ



タカノツメ



ヤマザクラ



ウワミズザクラ



タラヨウ



チャノキ



クロモジ



サカキ



ホオノキ

○植えたもの



クヌギ



モミジ



ツブラジイ



スダジイ

○増えたもの



マテバシイ



フユイチゴ



シダ類

○その他



ナラタケモドキ



ナメコ



ヒラタケ



カエントケ

○実生



キリ



タラノキ



コウゾ



ビロードイチゴ



コナラ

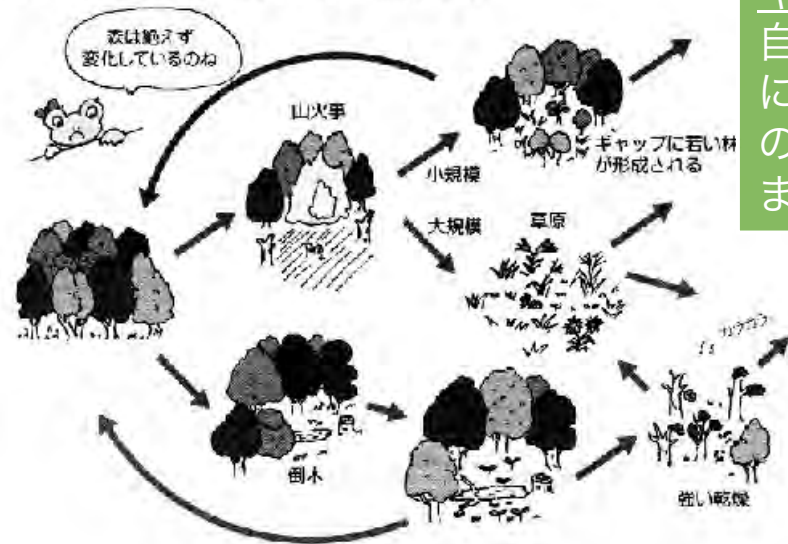


ウド



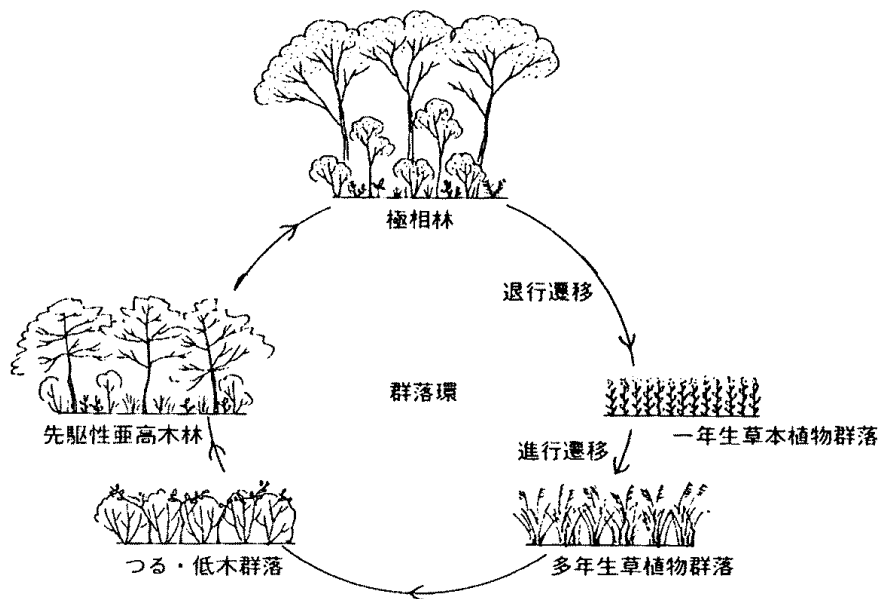
サンショウ

シフティングモザイクとしての生態系の見方



ギャップとは

自然災害や伐採、老衰などによる倒木によって、林床の暗い森林に出来た、林床まで光が差し込む隙間



極相を迎えた極相林では、通常、背の高い陰樹により林冠が形成され、林内は暗い状態である。しかし、背の高い高木が倒れると、周囲を巻き込んで林冠に大きな隙間を生じ、林床まで光が差し込む隙間が出来る。そのためそれまで成長を抑えられていた下層の植生や新たに生えてきた植生が育ちやすい環境となり、森林の植物が多様になる。

①里山からつながる水循環

落ち葉の力

豊かな森は「緑のダム」＝雨水をため込み洪水を防ぎます。

森林の様々な働きをお金に換算すると、年間70兆円になるという試算があります。

水資源の貯留に関しては、約8兆7000億円あまりだそうです。

（出典：日本学術会議2001年「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について（答申）」）

では、豊かな森とはどんな森でしょうか？

簡単にいうと、いろんな種の木々がある森林。

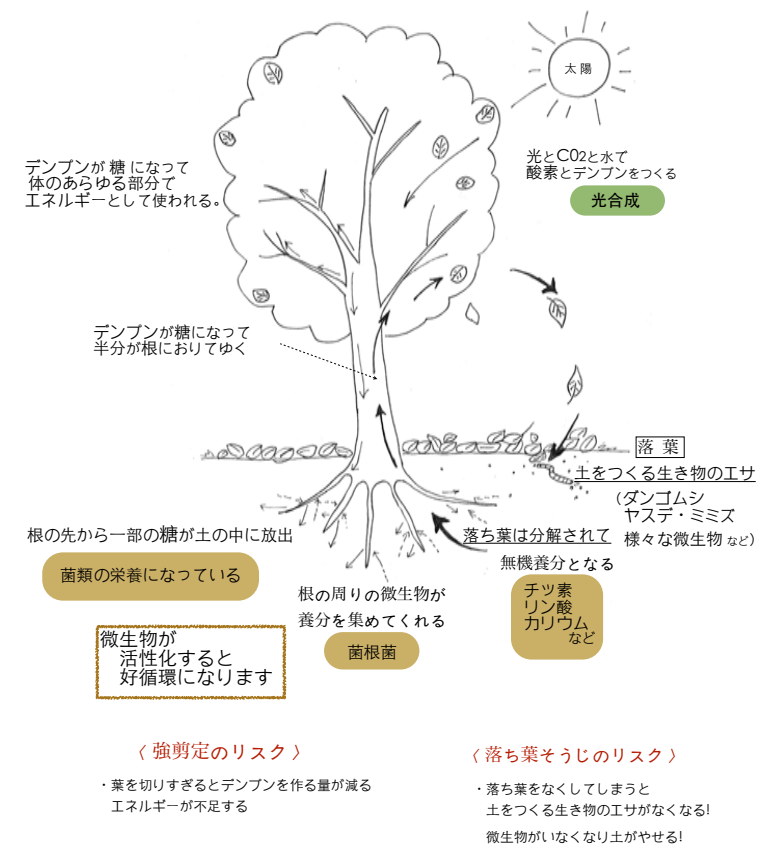
スギやヒノキだけではなく、「落ち葉」が土を肥やしてくれる「広葉樹」も見られる森が「緑のダム」となり得るということです。

（針広混交林）

落ち葉には、水の質を変える力もあるのだそうです。東北の気仙沼では、漁師さんが山の植林をする活動が30年にわたって行われています。（森は海の恋人という活動）

落ち葉が腐葉土になる過程で生じるフルボ酸が植物プランクトンに必要な鉄分をくっつけ、海や川に届けてくれます。それによって、魚介が豊富な川や海になると言われています。

植物がつくる自然の物質循環

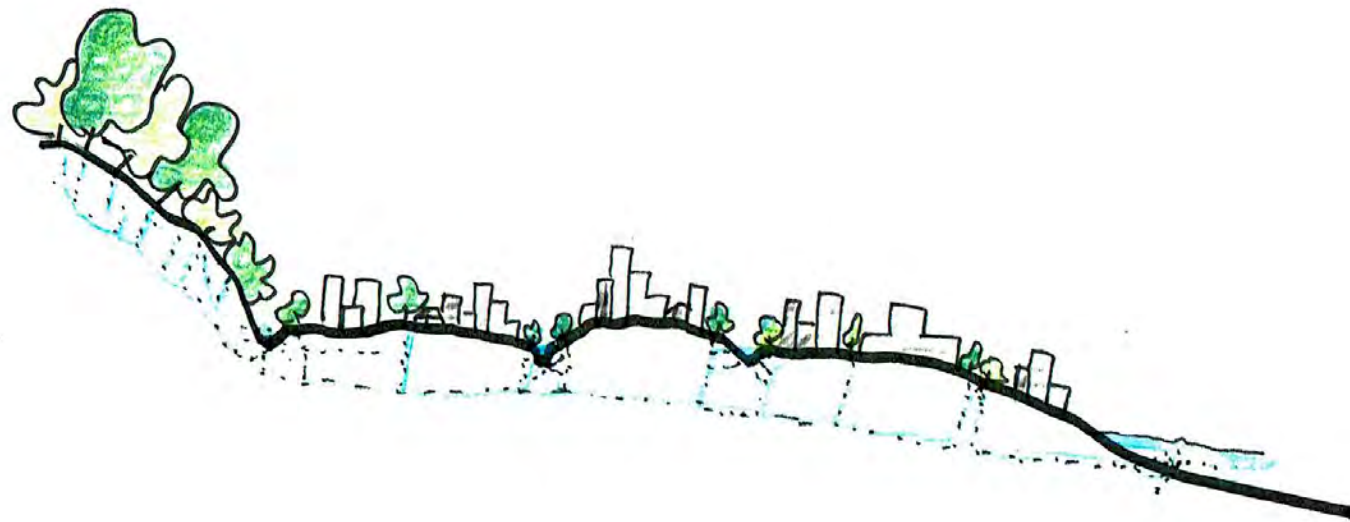


土壌に好循環の手助けをすれば 徐々に
自力で健康的な住空間を育てていけると考えています。

山から海へ

この様に、人工林にギャップができて、広葉樹が混ざった森が増えると、水を蓄え、洪水の緩和につながり、さらに地域の川や海の幸を豊かにする。

この里山からつながる「水循環」を頭に描いて、山での活動を行うと、作業の一つ一つの意味合いが変わってくる様に思われます。



②里山とまちがつながる緑のネットワーク

鳥が運ぶタネ

人工林にギャップができて、広葉樹が増えてくる過程で、いろんな木々が芽生えてきます。そんな中、元々この山になかった木々も見られる様に。こちらでもちょっと気になる木が。

ナンキンハゼという木です。

中国原産の外来種で、街路樹などでよく使われている木々です。元々はこの山になかったと思われます。鳥が実を食べて、山にも広がったと考えられます。外来種全てがそうではないですが、中には、在来種の居場所を奪ってしまうと考えられる植物もあります。（おもに特定外来種に指定されているもの）



新たな里山の活用例

里山に特定の外来種が増えすぎない様に、これからは、まちの緑の計画時に、地域の里山に自生する植物のタネから作った苗木を植えようという考えも広がってきました。

伊丹市の阪神昆陽特別支援学校では、武庫川流域の山から採取したタネから育った苗木を使って、生徒たちと植樹をしました。（右下の写真）（タネは尼崎の森中央緑地の提供：右上）

里山の活用方法として、まちのコミュニティが近隣の川の流域の山で、ドングリやタネを採取して苗を作り、まちの緑化の使うことも増えてくると思っています。

生態系ネットワーク～森里まち海

この様に、水循環、鳥などの生き物と緑のつながりは、山からまち、海へとつながる一つのシステム、ネットワークと考えると、とっても雄大で、想像すると楽しくなります。

山での活動、作業の一つ一つが、みなさんの住んでいる場所の「質」もきっと変えてくれるはずです。



第3回：モデル林活動体験①

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
- 10:10 活動地の森の説明
- 11:00 バイオマスフォーラム丹波の活動報告
- 12:00 昼食
- 13:00 クラフト体験
- 14:30 まとめ
- 15:00 解散

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。願っております。

今回のゲスト講師

山崎春人さん

里山アドバイザー。自然の中で暮らすために02年に西宮市から丹波市へ移住。丹波の子供たちを中心に、森の遊び方や草花等の豊富な知識を伝え、キャンプや川遊びを行う「遊びの学校」校長を務める。

前川哲和さん

バイオマスフォーラム丹波代表。子どもが遊べる森づくりを展開する。活動地「里山ごんげんさん」は週末開放し、地域の親子連れが利用している。

第4回：モデル林活動体験②

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
- 10:10 平松森林愛好会の活動報告（公民館にて）
- 11:30 昼食
- 12:30 活動地へ移動
- 13:00 活動の視察、体験
- 14:45 まとめ
- 15:00 解散

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと思います。願っております。

今回のゲスト講師

伊藤忠嘉さん

平松区森林愛好会代表。地域住民の有志と地域の山林で人工林や竹林の除間伐などの整備や、竹チップや薪の生産などの資源利用に取り組む。

第5回：グリーンウッドワーク体験

プログラム

- 10:00 開会の挨拶（主催者より）
- 10:10 グリーンウッドワークについての説明
- 11:00 スプーンづくりの実演、体験
- 12:00 昼食
- 12:30 ワークベンチ、チョッピングブロックづくりワークショップ
- 14:30 まとめ
- 15:00 解散

里山育成研修会

- 「丹波の里山づくり促進事業」では、昨年度より丹波の里山づくりを促進することを目的としたフォーラムと研修会の開催を行っています。今年度は、実際に「丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体」に選定されたモデル林で行われている様々な活動を知ることができるような、体験型の研修会を開催します。里山育成に関心のある、より多くの方に参加していただき、その経験をそれぞれの活動へと活かしていただきたいと願っております。

今回のゲスト講師

福畑慎吾さん

大阪府能勢町にある「cafe soto」代表。関西を代表するグリーンウッドワーカー。関西地域の森林ボランティアグループや一般の方等に伐りたての木とナイフで暮らしの道具が作れるグリーンウッドワーク全般の紹介/指導を行い普及に努める。

各回のアンケート結果

【第1回アンケート】

①なぜこの回に参加しようと思いましたか？

- ・里山づくりに活用したいから
- ・山をこれまで以上に理解したかった
- ・里山づくりとはどのように進めていくかを研修したかった
- ・里山づくりの基本を何に置けばいいかをまなびたい
- ・台風の被害などから、地域の里山の取り組みについて考えるようになった
- ・樹木に興味があったため
- ・趣味で山歩きをするため、植生などの知識があればより楽しめると思ったから
- ・職場で里山に関する仕事をしているが、実際にどのように調査が行われているかを知らなかったから
- ・実際に里山づくりにかかわってはいるが、細かい森のことについてはよくわかっていないので
- ・里山づくりについて、議論だけでなく実践の段階まで研修できることに魅かれたから

②今回のプログラムへのご意見(内容、構成、時間配分などについて)

- ・植生調査は専門的な内容で少し難しかった
- ・大変わかりやすかった
- ・植生調査、生態調査とはどういうことか少しわかった
- ・それぞれの里山づくりによって調査の手法が異なるのではないか
- ・現地で実際に植物を手に取りながらの講習でわかり易かった
- ・調査以前に、植物の名前や見分けすべてが難しかった
- ・植物の知識がなくても調査は可能ということが、実習してわかったのでよかった
- ・傾斜地での実習はきつかった
- ・植物の名前がまだまだ分からないので、復習が必要
- ・今回学んだ植生調査を、目指すべき植生調査にどうつなげていくのかいまいちわからなかった

③この回の感想、学んだこと、難しかったことなど

- ・植物の被度、群度を具体的な数字にするのは難しい
- ・何度か植生調査の講習は受けたが、実際にしたことはないので、近いうちに実際にやってみたい
- ・専門用語が多くて理解しにくいところもあったが、説明を聞くうちに少しずつ理解できたことが楽しかった

- ・里山づくりにおいて全部の植物を調べるのは困難なので、ある程度ゴールを決めて、それに必要な調査を選んでいきたい
- ・整備を始める前にまず現状を把握する調査が大切だと感じた
- ・「植生調査」という文字だけ見ると、専門知識や器具がなければ行えないと思ってしまいが、実際は代用等で可能ということでハードルが下がった
- ・知識が増えて、山に入る楽しみができた

④今回の研修会を受けて、今後どのように里山づくりにかかわっていこうと思いましたか？

- ・地域の方と楽しみながら里山づくりを進めたい
- ・山を知ることから始めたい
- ・集落の山林の手入れについて、目標を定めることから始めたい
- ・里山づくりの目的をどこに置くか勉強していきたい
- ・現在里山づくりの団体に所属してはいるわけではないが、いつでも始められるように、自分自身で山の知識を身に付けようと思った。
- ・林業ほど専門的なことはできないが、市民でできる効果的な森づくりを考えていきたい

【第2回アンケート】

①なぜこの回に参加しようと思いましたか？

- ・里山の活動スタッフとして身につけたいテーマだった
- ・以前より里山づくりにかかわりたいと思っており、市の公報の告知ですることができたため
- ・仕事で山の整備にかかわることを行っているため
- ・参加している知人からの誘いで
- ・アマガエルさんのつながりで
- ・これから里山づくりに若い人が参加できることが大切だと思い、丹波の実例をみたかったから

②今回のプログラムへのご意見(内容、構成、時間配分などについて)

- ・マリオさんの話が面白く、子どもの目線が学べた
- ・「森で食を楽しむ」というコンセプトが新鮮で、強烈に印象づいた
- ・あっという間に終わってしまった
- ・体験も休憩をはさみながらでちょうどよかった

③この回の感想、学んだこと、難しかったことなど

- ・山の手入れだけでなく、その人集め、手作業の必要性和難しさを感じた

- ・いかにして次世代へ里山を伝えていくかを探るヒントになったように思う
- ・コンセプトを決めて、残すものと切るものを選ぶというやり方を初めて知って、その大切さを感じた
- ・子供たちと一緒にするのも楽しいと思う
- ・食という身近な視点からは入ると入りやすく、実感が持ちやすい
- ・ギャップを利用した子どもたちの場づくりのこれまでの流れがよく分かった
- ・植生についてさまざまな詳しい話が聞けて勉強になった
- ・子供たちのあそび場、大人の喜ぶ場所など、里山の豊かさを再確認した
- ・里山からさまざまな活動につながっていく、広がっていくのが面白い
- ・実際に体を動かし植物に触れることができたので記憶に残り易かった。子どももつれてきたかった。
- ・里山の活用をフルに取り入れている活動地であったと思う

④今回の研修会を受けて、今後どのように里山づくりにかかわっていこうと思いましたか？

- ・里山の施業をする人だけでなく、山で学び遊ぶ人の目線を考えた施業を模索したい
- ・地域の活性化、世代間交流の場、環境保全と、全く違うテーマをどう複合させて地域住民を交えて発展させていくかを考えていきたい。
- ・自分に身近な視点で山にアプローチしていきたい
- ・この活動地がどのように変化していくのか、また来れるといいなと思った
- ・自分の地域の山の自然、植生も見直していきたい
- ・まだはっきりとはわからないが、自分の仕事と絡めていきたい

【第3回アンケート】

①なぜこの回に参加しようと思いましたか？

- ・里山に興味があって
- ・実際の活動現場をみたかった
- ・ごんげんさんの存在は知っていたが、実際の活動の状況は知らなかったから
- ・山、木が好きだから

②今回のプログラムへのご意見(内容、構成、時間配分などについて)

- ・クラフト体験が少し難しかった
- ・昼食準備をみんなで共同作業できたのが楽しかった
- ・木工クラフトはもう少し時間をとって学びたかった
- ・ずっと楽しい行程で、野外で作って食べるのは久しぶりで子供心に戻ったようだった
- ・集合場所はゆめタウンでよかった

・このような場をつくろうとしたとっかかり、今に至るまでの管理の方法などをもう少し詳しく知りたかった

③この回の感想、学んだこと、難しかったことなど

- ・子ども向けの里山活動が大事だと実感した
- ・研修会の隣で小さな子供たちが利用していて、「危ない、だめ」というのがないのがいいと思った
- ・自然の中で食事をしたりクラフトをしたり、子どもの心を少しとりもどすことができ、里山のすごさを実感した
- ・楽しいという思い出が次の活動につながると思った
- ・実際に隣で里山を活用している親子を見ることができ、次の世代に続いているのがなぜかを知ることができた
- ・子供に残していきたい里山、というのを考えることができた

④今回の研修会を受けて、今後どのように里山づくりにかかわっていこうと思いましたか？

- ・楽しいというのが一番だと思った
- ・大人が楽しく里山で遊んでいるのを子供に見せることが大切だと感じた
- ・このようなイベントがあれば積極的に参加する、近所の方にも声掛けをする
- ・今は受け身的な参加の仕方だが、いずれは企画できる立場になりたい
- ・人が集まる仕組みをつくっていきたい
- ・いろんな里山を見学でき、自分の地域にあった里山づくりのかかわり方を行っていききたいと思った

【第4回アンケート】

①なぜこの回に参加しようと思いましたか？

- ・自治会単位、地区の人々主体で里山整備活動に取り組んでいるのはまれに思われ、興味があった。
- ・里山保全、整備に興味があるから
- ・実践活動の事例をすることができるから。特に森林資源を活用している事例だから。
- ・植物、木、山全体が好きで、自然のものを有効に使っていくことに興味がある
- ・自宅近くの山を整備したいと思い、山林についての知識を深めたかった
- ・内容が、今後自分が取り組みたいことにマッチしたので

②今回のプログラムへのご意見(内容、構成、時間配分などについて)

- ・リーダーの伊藤さんの森づくりの姿勢が素晴らしい。理念といい作業手順といい、骨格

がしっかりしている

- ・内容、構成、時間配分ともによかった。
- ・伊藤さんの人柄に惚れた。実際の作業や道具をみながら話を聞いたのはよかった
- ・見学、体験と盛りだくさんでよかった
- ・細かいところまでフォローしていただけた

③この回の感想、学んだこと、難しかったことなど

・「やってることは小さなこと。しかし、目指してることは大きなことだ」この哲学に共感。
できることからできる形ではじめていき、次第に広げていく、戦術と戦略、両方を握りながら持続的に活動する見本をみた思い。

- ・竹林整備について、絶やす方法や竹チップの実演など、とても勉強になった
- ・少しずつ、無理のないように活動することの大切さ
- ・ボランティアでは考えられなような、プロの林業者のようだった。機械、ツールの大切さを感じた。
- ・続けるには、人を集めるには、安全面について、わかり易く勉強できた
- ・かなり完成度の高いシステムの中おこなわれている活動に感動した
- ・なかなか体験できないこと、聞けないお話でとても楽しかった
- ・自然に対する知識、機材をあつかう技術など、自ら学んでいく必要性を感じた
- ・人づくりが大切だと感じた

④今回の研修会を受けて、今後どのように里山づくりにかかわっていこうと思いましたか？

- ・森づくりについての、循環的活動コンセプトを会員に十分理解してもらったうえで活動を進めていくことの重要性を再確認できた。
- ・自分自身今後とも知識や経験を積み、何ができるか考えていきたい
- ・この参考事例を地域の皆さんに伝えることから始めたい
- ・自分の家の山など、身近なところから実行していきたい
- ・人と人の結びを活かした里山づくりを意識したい

【第5回アンケート】

①なぜこの回に参加しようと思いましたか？

- ・薪ストーブを使った生活をしており、5年前から原木の入手が困難、高価になったのがきっかけで、近年の木材流通(川上～川下)を知りたくて
- ・研修会の回を重ねるごとにますます興味がわいて、今度はどんなことが体験できるんだろう、という楽しみで参加した
- ・グリーンウッドワークに興味があり、始めたいと思っていたから

- ・今回の一連の研修会の最後ということで、そのまとめとして、参加したかった。
- ・里山整備で発生した森林資源の活用方法として、実践されている方の手法を知りたかった。

②今回のプログラムへのご意見(内容、構成、時間配分などについて)

- ・最初から最後まですべての工程を体験でき、夢中になって時間を忘れてしまうほど楽しかった
- ・素朴ながら使い手のことを考え、自然の恵みを大切に扱うことを学びつつ自分の創作意欲もかきたてられる機会だった
- ・スプーンづくりがしたかった
- ・誰もが取り組みそうな内容で、また作ったものを普段の生活の中でも利用できるメリットもあり、良かったと思う。
- ・共同作業ができたのも良かった。
- ・もう少し時間があれば、個人個人で製作できると、また、はまる人もできたかも。
- ・研修会最後ということもあり、参加者同士の意見交換会などもあれば良かった。
- ・今回のグリーンウッドワークでは、道具の紹介などもあり、参考になる面もあったが、手持ちの鉋や小刀でも十分対応できる場所もあるので、専門のナイフがあることの紹介も良かったが、身近な道具でもできることも知らせてほしかった。
- ・このような経験はほぼ初めてだったので、講義内容のほとんどが目新しく、勉強になりとても楽しかった。
- ・ワークベンチとチョッピングブロックも完成し、参加者みんなで作りあげたという一体感に感動した。
- ・講師の福畑さんのお話がかなり濃かったので、この内容で全 5 回とかのプログラムでもっと深掘りして頂けるなら、ぜひ参加したい。参加費ありでも参加したい。

③この回の感想、学んだこと、難しかったことなど

- ・木工は乾燥した木を使うイメージしかなかったが、伐採直後の木を加工する技術を初めて知って驚いた。
- ・実際の作業を行って、思った以上に難しかった分、夢中になった
- ・講師の方のご教授通りには進まず、見ることととすることの違いを痛感した。
- ・自分で身の回りの道具をつくる楽しさを学べたことは大きかった
- ・漠然と里山を守らなければ、という思いから、里山環境をよくしながら老若男女が自然に触れる機会を持ち相互理解を深めながら自然の恩恵を受ける感動を共有できる素晴らしさへの実感に変化した。
- ・ドローナイフに初めて触れたが、クセになる使い心地で今後研鑽していきたい。途中、オノやナタなど自分のものを使用したけど、福畑さんの丁寧なメンテナンスされた道具との

差が歴然で、きちんとした手入れの大事さを実感した。

・木材の逆目や裏・表、芯や使う部位のことやその性質などとても興味深く、今後も自主的に勉強していきたいと感じた。

④今回の研修会を受けて、今後どのように里山づくりにかかわっていこうと思いましたか？

・現在里山づくりに直接かかわっていく予定はないが、今回の経験を周りの知人等に広めていきたい

・今後もこのようなイベントがあればぜひ参加したい

・より多くの人に知ってもらいたい、知識を深めながら仲間を増やしていきたい。

・普段から山にはかかわっているが、グリーンウッドワークなど楽しめることをきっかけに、いろんな人に山に向かってもらえるようにしたい

・作業が主体の里山作り活動の中に、もう少しゆとりを持って楽しめる時間も取り入れて、多くの人たちが関わり、長くその活動が続くように、コーディネートできる人材を各活動地に増やしていくことが大切だと思っています。

・木を切った後の活用にいかしていきたい。上手く作れるようになったら、他の方へ提供出来るようになれば、と思う。